

橋本治雜文集成

パンセⅠ



女性たちよ!

橋本治

橋本治雜文集成

パンセⅠ

女性たちよ!

橋本治

河出書房新社

橋本治雜文集

パンセー 女性たちよ！

一九八九年一月二〇日 初版発行
一九九〇年一月二五日 再版発行

著者 橋本 治

装幀者 鈴木成一

発行者 清水 勝

発行所 株式会社 河出書房新社

東京都渋谷区千駄ヶ谷二―三二―二

営業 〇三―四〇四―一二〇一

電話 編集 〇三―四〇四―八六一一

振替口座（東京）〇一―〇八〇二

印刷 三松堂印刷株式会社

製本 小泉製本株式会社

落丁・乱丁本はお取替えいたします

定価はカバー・帯に表示してあります

©1989 Printed in Japan

ISBN 4-309-60391-2

橋本 治（はしもと おさむ）
一九四八年東京生れ。東京十
文学部卒業。作家。『桃尻娘
で衝動的なデビューを飾つて
来』小説、評論、エッセイ、
訳にさまざまな健筆ぶりを示
している。主著に『暗夜』『薄
刀』『ハイスクール八大伝』『
の矢車草』『桃尻語訳 枕草』
『男の編み物手とり足とり』

目次 CONTENTS

自己礼讃⁷

OVERTURE。

生き生きした女が美しいのなら、
生き生きした豚はただ肥ってるだけじゃないか¹²

ダメ男について¹⁷

恋するって、おそろしいことなのネ²²

愛するって、うつろいやすいことなのネ²⁶

星に願いを When you wish upon a star³³

女の子が20歳になるまでに

知っておかなければならない7つの常識³⁹

春色百千鳥 —— 大島弓子と山口百恵⁴⁷

トンカリリ⁵⁵

『ブルータス』がセックスの特集をするから
書けと言つて来たので書いた

それ風な「少女マンガのセックス」⁵⁹

最も激しい不能——石井隆論 65

怒れない!の⁷⁵

ボディコンは八〇年代のベルボトム⁹¹

キヤサリン・ターナー——昔々アメリカ人はね⁹³

闘^{しやう}より愛をこめて⁹⁶

ブルーベリー邪夢と少年売春¹⁰⁷

大地の唇——『花咲く乙女たちのキンピラコボウ』もう一つのエピソード¹²⁴

「単位」という考え方を捨てろ!¹⁵³

「結婚なんかしたくない」¹⁵⁷

そう言わなければ勿論

あなたは死人である——『古事記』小考¹⁶⁹

「私ってそういう人」っていうのが嫌いなオジサン¹⁸¹

棘のある花束¹⁸⁴

臉の外——長谷川伸『臉の母』考²⁰²

アンチクシヨオに花束を 212

フェミニスト 218

股の彼方に OVER THE OMACOW 220

エイズ——拒絶と病 240

迷宮の中の家出少女 255

私はだから男が嫌いだ 269

みんな「男」になればいい 273

時のすぎゆくまゝに 284

解題Ⅱ「女」ってそんなにいいもんか? 289

橋本治雜文集成

パンセⅠ

女性たちよ!

自己礼讃



世の中にはやな女がいて、自分に関心示さない男を見ると、このテの女は「あなたってナルシストなのねエ」という。心理学用語使った通俗小説を3冊ばかり読んだからって、デカイ面すんじゃねエよこのバカが、なんてこと言えるのはモチロン今の私にしての発言であって、どういう訳か、私は長い間このテのことをはつきり言えなかった。言えないとどうなるのかというと、このテの女にしつこくつきまとられる。あーいやだ。いやだった。やな女にかかずらわられて、しかもナルシストななんていうやなレッテル貼られてね。人間が自分のこと気にするのなんて当り前じゃないか！

という訳で、私は長い間自分のことを「なるしすとなのかなア……？」と平仮名で考えていた。考えていたけどそれは勿論違うというのが何故かというと、それは私の理想が高いからだ。「こんなテードの低い自分を愛せるか！」と思って、私は自己嫌悪していたので、どうして世の美青年でああもダサイんでしょうねエ……（頭悪いんだア）。

実はきのう、私の初めての推理小説（書き下しで長篇だぜエ。900枚なんだからア）が出来て来たんです。と同時にこの原稿の締切りもやって来たんだけど。両者が運よく落ち合つてねエ。ついに、吐いてはならぬ一言を吐いてしまった。「やつぱり俺、こんな才能のある作家つて他にいないと思う！」つて。あ、ごめんなさい。

でも冷静に考えるとそうなんだよね。

まず第一に若い。私なんか、相変らず「学生さん」で通つてんだよオ。35なのに。背も高いし。俺が身長1メートル80だなんて知らないだろう？ 東大出てんだよオ——ウーッ、酔つてしまう……。なんて頭がいいんだ。ついに私はこのことに気がついてしまった！（しかしこれと才能とはどう関係あるんでしょう？）

OVERTURE



何故、今改めて「男の自立」というものが問題にされるのかといえ、それは女が自立を目指してしまつたからである。

女が自立を目指してしまつたということは、女が自らの自立を阻む抑圧の存在を自覚してしまつたということである。

その抑圧とは、女達が内に抱えこまされてしまつていた「性」であつた。

「性」は自らの内にあり、その存在は、自らの内で事実として揺らぎがない。だから、彼女達の抑圧からの解放は、彼女達自らの意識の変容以外ありえない。

そして、ことが「意識」の問題であるのなら、彼女達の内部にどのような変化が起ころうとも、少なくとも外見上はどのような形式的な変化も認められない筈である。彼女達の変化は、自らの内部で密やかに、そして、その原因の確たる所在故に、極めて明瞭に進められつつある。

翻つて、男の自立を促すような要因は何一つない。男が自立を必要とするという自覚すら未だに希薄である。

そして、ここという自覚とは、男性向きと女性向きとを問わない浮薄な週刊誌ジャーナリズムで取沙汰される「男の乳離れ論争」のような、無邪気な現実肯定と皆さんだ享楽主義との間でかわされる、なれあいの笑いとは全く次元を異にし、しかもその表層に於いては全く同じ形をとるようなものである。

女の自立を促すような要因はあった。しかしながら男の自立を促すような要因はない。

女を自立へと衝き動かしたものが「性」であり、未だかつて一度もその事実が取沙汰されなかったのなら、女の自立を阻んでいたものは、彼女達の「性」が彼女達の抑圧の要因とはならないと信じていたところの「意識」である。ならば、彼女達が彼女達自身の抑圧を抑圧として意識することが出来えなかった根本理由は、全世界、全社会を覆いつくしたその「意識」であらねばならない。

彼女達が自らの抑圧を自覚した今、彼女達の抑圧を支えていた意識は根本的な誤りを、密やかにそして明瞭に露呈し始めた。そして、女達の自立を促すような要因があり、男達の自立を促すような要因がないのなら、その理由ははっきりしている。即ちそれは、無自覚である。

女達の自立を促すような要因が一つであり、男達の自立を促すような要因がないのなら、そして、その要因を「なし」としたままで平然と黙過しえるものならば、男達の要因の数は、又男達の要因のあり様は、同じく一つしかない。即ち、男達を取り囲むすべてのもの、女達の自立を促す一つの要因

を取り除いた残りすべて、女達を抑圧に追いやった全世界、全社会を支える「意識」である。

何故ならば、周囲すべてを誤りによつて取り囲まれた人間に、一つの誤りを殊更に指摘することが可能であろう筈はないからである。

即ち、男の自立とは、全世界に対して、全世界を今まで成立させていたすべての意識、すべての意味付けに対してただ一言「NO!」と叫ぶことに始まるのだ。

たとえ全世界を拒否したところで何を畏れる必要がある。僕達には僕達自身が、既に存在しているのだから。

すべての事象に於ける「意味付け」を一切無効にすることから「男の自立」は始まるのであり、僕達の前に存在しているものは、今すべてが「嘘」で「バカ」なのだ。そして今、そう自覚してしまった僕達の前には、もののみごとに、なに一つありはしないのだ、たった一つ、僕達自身を除いては。

生き生きした女が美しいのなら、
生き生きした豚はただ肥つてるだけじゃないか



生き生きした女は美しい、と。言われてみりやアお説ごもつとも、ハハアであります、でもサ、今なんか大概の女は生き生きとしてる訳よネ、——一説には、好き勝手に生きてるだけだともいうけど——そんならサ、今大概の女は美しい訳よネ。ハハハ、しかし、相変らず世の中ブスばつかなのはどういふ訳かしらん？

俺ここんとこ、ワリと仕事で新雑誌つつうか、新しめの女性誌のたぐいつつうか、そういうの一生懸命コマメに見てたのよネ。おかげでどつと疲れたけど、マア、大体造りつて決まつてんのよネ。知的な女向けの雑誌は頬骨とんがらした、毛穴の開いた外人女が齒アムキ出して、若い女向けは、ブスが真ッ赤な口紅つけて、出ッ齒ムキ出して笑つてんのよネ。そんでやつぱり、今の日本だと、知的な人的資源には限りがあつから、若い娘向けが盛んなんのよネ。だから、アッチ向いてもコッチ向いても、真ッ赤な口紅つけたブスが出ッ齒ムキ出して笑つてんのよネ。

このテのブスは、テレビにも出て来んのよネ。視聴者参加番組とか公開番組とか、アト、23時シヨのカバーガールとか、出て来んのよネ。真夜中の突撃キスとか、新婚さんいらっしやいなんで、若い亭主は大概黙ってて、嫁の方が一人でガチャガチャ喋ってんのよネ。それで、大概のバアイ、嫁の「おかあさん」なんて人が二人に「理解があつて」「一生懸命ナニをくつつけたがったりすんのよネ。もうサ、世の中生き生き女の氾濫で、うるせエから少し黙ってくんねエか！ って感じなのよネ。

なぜ生き生きした女がブスなのかっていうと、こりやもう簡単でサ、ブスの方が勝手に、「生き生きしてるんだから美しいのよ、文句ある？」と思つてるだけなのネ。

マア、ブスというのは、自分のことを棚に上げる才能にだけは長けている人種だから、簡単に「文句ある？」って言えるんだけどサ、俺はとっても文句あるのよネ。だって、美しいってことは、「文句ある？」って言うって他人を脅しにかかるのとはマァツタク、正反対のことなんだからねエーだ。悪いけど。

大体、女がなぜ美しかったのか（過去形！）ということを考えてみれば分かんのよネ。女が美しかったのは、もう、これは絶対に、女が女らしかったからなのよネ。ブスはブスであつて、ブスは絶対に女らしくなんかないから勝手に「生き生き」できちゃうのよネ。ブスにとつちやア、女らしさなんてない方がいいんだもんネ。文句ある？

ここで大体私は反感を買うのよネ。今時唐突にも「女らしさ」なんて引つ張り出して来て、反動的

だっていつてキーキーののしられんのよネ。大体ブスは頭悪いし、俺ブスくらいだから、いくらものしられたっていいんだ。このテードのことで目くじら立てんのはブスに決まってるだもん。

しつこく過去形で悪いけど、女は女らしかったから美しかったんだもんね。それで、女らしさってのはどういうもんかと言えば、着物——いわゆる帯で締め上げる和服ネ——のこと考えれば分かるんだけど、あれはキュークツでカタ苦しいもんなだもんネ。キュークツでカタ苦しかった上に、帯解いてラクしようと思うと「ブシグラだッ！」って怒鳴りつけられたんですよネ。だから、昔の女の方は、帯の間にチョツと手を差しこんで、「ふっ」とはかない吐息をもらしたんだもんネ。生き生きなんて決して出来ないこと分かてるけど、でもやっぱり自由になりたいから、空の片隅をそっと見上げて、眉と眉の間にちよつとだけ希望というものを宿していたんだもんネ。美しいっていうのは、実に、そういうことなんだよネ。こんなこと言い出すと、又どっかから「耐える女は美しい」なんてヘンなスローガンが出て来そうだけど、そんなの嘘サ、「耐える女はうっとうしい」だけなんだから、今は。要はサ、人間ていうのは、生きようとすることによってしか美しくはなれないっていうことなんだよネ。

「生き生きしてる女は美しい」って言うサ、でもそれは、世の中の圧倒的多数の女が生き生きとしてないことじゃないか。世の中の圧倒的多数の女が、「生き生きしてる」なんてことを、考えてもみたことがなかったからじゃないか。「生き生きしてる女は美しい」っていう言葉は、「一遍生き生きとしてごらん、生き生きとすることだって出来るんだよ、そうすればきみだって美しくなれるじゃない